

# 一般財団法人 全国盲導犬協会 平成 26 年度事業報告書

## 1. 訓練業務、認定業務

以下の業務は、当協会の本来の業務（盲導犬育成）として日常的に、または随時頻回におこなったものであり、一部を省き具体的な日時や回数は記載しない：

### 1.1 育成犬の飼育、ならびに通院等を含む健康管理

### 1.2 育成犬の訓練（基本訓練、誘導訓練）

誘導訓練に関しては、当協会では初めてとなる公共交通機関での乗車訓練を 10 月におこなった。JR 東日本水戸支社（常磐線）、ならびにひたちなか市（市営バス）の協力により、予定された訓練過程を滞り無く消化した。

### 1.3 育成犬の盲導犬適性審査

1 頭の育成犬について、平成 27 年 1 月 29 日に 2 名の歩行指導員が審査をおこない、盲導犬として適性有りと判断した。この犬の使用者となる人物の歩行指導を次年度初頭におこなうこととした（※平成 27 年 5 月 25 日、この犬は盲導犬として認定貸与された）。

### 1.4 使用者候補の人選

適正審査を通過した犬を盲導犬として貸与する視覚障害者の人選を、経験、生活環境、使用環境、必要性などの要素を考慮の上、決定した。

### 1.5 ブリーダーのリサーチ、訪問視察、子犬の購入

平成 26 年度には合計で 11 頭の子犬を盲導犬、もしくは繁殖犬の候補犬として購入した。

### 1.6 子犬飼育奉仕者、進路変更犬引取希望者、繁殖犬飼育奉仕者の募集、面談、飼育指導

募集チラシの制作配布やホームページ上での案内を通じて希望者を募った。当協会の施設内、または飼育奉仕者宅にて職員が随時飼育指導をおこなった。子犬飼育に関しては、新たに 6 名から支援の申し出があり、現在では 9 名が稼働中である。進路変更犬引取に関しては、6 名から希望があり、それぞれに 1 頭ずつ引き渡された。

子犬購入頭数	進路変更犬引渡し頭数	3 月末保有犬頭数
12	6	18（うち 2 頭が広報犬）

※なお、子犬 1 頭が平成 26 年 7 月 26 日に急性出血性胃腸炎のため飼育奉仕者宅で死亡している。

### 1.7 歩行指導員研修生の教育（当協会の訓練士・歩行指導員養成計画書に基づく）

### 1.8 職員特別研修

歩行指導員研修生 2 名が国立障害者リハビリテーションセンター学院主催の「介助犬・聴導犬訓

練者研修会」(平成 27 年 3 月 9 日～14 日)に参加し、補助犬に関する一般的な知識の向上を図った。また、歩行指導員研修生 2 名が盲導犬使用者の私邸に宿泊滞在(1 週間)し、盲導犬使用者の生活についてより深く理解するよう務めた。更に同様の目的で、盲導犬使用者の講話を訓練部の職員が聴講した(1 回)。

### 1.9 盲導犬貸与希望者への説明会

視覚障害者 2 名に対して当協会の育成する盲導犬についての説明をおこなった。

## 2. 広報啓発業務

以下の業務は、日本における盲導犬育成事業全般、ならびに当協会の盲導犬育成事業に対して社会の理解を求める目的で、定期的、もしくは臨時におこなったものである。

### 2.1 学習会の開催

一般の希望者を募り、定期的に施設内で学習会を開催した。臨時(追加分)の学習会を含め平成 26 年度は 10 回の開催となった。主な参加者は以下のものであった:一般希望者、公立中学校生徒、茨城視生会関係者、盲導犬育成事業ボランティア活動従事者

### 2.2 出張講話・デモンストレーション

視覚障害と盲導犬についての講話、ならびにデモンストレーションを依頼により 13 回おこなった。講話の主な対象者は以下のものであった:企業(新入)社員、幼稚園児と父兄、公立小学校生徒、私立高等学校生徒、「ボランティア担い手養成講座」受講者、「ひたちなか動物愛護講座」受講者、社会福祉協議会関係者、ライオンズクラブ会員

### 2.3 メディアを通じての啓発広報活動

ラジオ、新聞、雑誌、インターネット、その他の媒体への出演、寄稿、取材対応をおこなった(10 回)。主なメディアは以下のものであった:IBS 茨城放送、FM ぱるるん、茨城新聞、読売タウンニュース、「わがまち」(ひたちなか市市民憲章推進課発行)、毎日新聞、月刊「プラザ」(株式会社プラザ茨城発行)、ひたちなか市げんき-NET

### 2.4 写真展の開催

地元で活動する写真家(小沼渉氏)の協力を得て、水戸京成百貨店にて盲導犬についての写真パネル展を主催し(平成 26 年 7 月 24 日～29 日)、3000 名程が来場した。

### 2.5 「チャリティー・ドッグ・フェスタ」の開催

地元で活動する愛犬家団体(水戸フライングドッグクラブ)の協力を得て、水戸市内のドッグランにて盲導犬育成事業についての啓発を主な目的としながらも、一般の参加者がペットとともに楽しめる総合的なイベントを主催し(平成 26 年 9 月 7 日)、200 名程が来場した。

## 2.6 「ローリー基金」との共同活動

当協会の支援ボランティアグループである「ローリー基金」の活動へ職員、役員、広報犬を派遣するなどして、同グループの活動の効果が向上されるよう図った。主な活動は以下のようである：定期街頭募金活動協力 10 回、臨時街頭募金活動協力 6 回、バザー開催協力 12 回

## 2.7 イベント参加

行政、企業、団体、個人が開催するイベントに職員、役員、広報犬が参加し、広報啓発活動を展開した（18 回）。主な参加先は以下のようである：ライオンズクラブの慈善活動、水戸フライングドッグクラブの競技会、水戸まちなかフェスティバル、県立盲学校文化祭、チャリティーコンサート（大塚美由紀氏）、その他、地域の祭やイベント

## 2.8 資料配布

上述した機会において、日本の盲導犬育成事業全般、ならびに当協会の盲導犬育成事業についての資料を配布し、盲導犬育成事業への社会の理解がより深まるよう務めた。同様の目的で、6 月には「協会だより」を 3000 部発行（10 月に 1000 部増刷）した。

## 3. 財源強化充実のための取り組み

広報活動を通じて個人、団体、企業へ支援の働きかけをおこなう他、安定した運営資金を確保するため以下の対策をおこなった。

### 3.1 募金型自動販売機の増設

株式会社ライズ、ならびにダイドードリンコ株式会社の協力により、当協会の募金型自動販売機の増設がおこなわれた：平成 26 年度には新たに 6 設置主と契約を結び、平成 25 年度（10 設置主／15 台）と合わせて 16 設置主（建設現場への設置を含み、合計台数は都度変動）となった。

### 3.2 募金箱の配布停止

募金箱の制作費、ならびに管理にかかる費用を鑑み、やむを得ず募金箱の長期貸出（配布）を一時的に停止した。現在、募金箱については催し物などの機会に都度貸出をおこなっている。

## 4. 寄附金の使途報告

ここでは平成 26 年度の寄付金のうち、具体的な使途の報告が寄附の条件であった寄附金について、その金額と使途について報告する。

### ・ かすみがうらマラソン実行委員会からの寄附金の使途報告

675,625 円の寄附金は、子犬 4 頭（ドイル、パレット、トーマス、エバン）の購入費（694,600 円）の大部分に充当した。

## 5. その他

### 5.1 役員会の開催

理事会、ならびに評議員会を以下の日程で開催した：

理事会		評議員会	
第1回	平成26年4月10日(木)	第1回	平成26年4月10日(木)
第2回	平成26年5月28日(水)	第2回	平成26年6月5日(木)
第3回	平成26年12月16日(火)	第3回	平成26年12月16日(火)
第4回	平成27年2月3日(火)	第4回	平成27年2月3日(火)
第5回	平成27年3月17日(火)	第5回	平成27年3月17日(火)
以上、全ての役員会は協会訓練施設にておこなわれた。			

### 5.2 犬具の開発

株式会社岡野製作所の協力を得て、盲導犬使用者により使い易いハーネス、ハンドル、リードの開発をおこなった。

### 5.3 他団体主催の行事等への参加（広報啓発業務以外）

助成金、目録等の受け取りや当協会の自己紹介、挨拶をおこなう目的で、他団体の主催する行事に職員、または役員と広報犬が参加した（5回）。主な参加先は以下のものである：ライオンズクラブの周年行事や例会、かすみがうらマラソン大会、常光院水戸精舎の法事

以上、平成27年6月2日、平成27年度第1回理事会にて決裁、同評議員会にて承認